

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語知識 I A (語彙・文法)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真実
時 間 数	前期：45 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 (JLPT) N2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙 岡崎：語彙</p>		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル相当の漢字・語彙を習得する。</p> <p>日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。</p>		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 の範囲に徹底した内容のテキストに沿って語彙の授業を行う。</p> <p>毎日語彙 20 問のテストを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。</p>		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 の合格。</p> <p>日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45%、単元別テスト (50%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「改訂版耳から覚える日本語能力試験 N2 語彙トレーニング」(アルク出版)		

令 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語知識 IB (読解)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期 : 45 時間 / 後期 : 時間		
科目の目的と 講義内容	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) N2		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p> <p>単元終了時にはそのテーマに関するスピーチを実施。互いにフィードバックや質問をし、自身の考えを日本語で発信、議論する場を増やす。</p>		
そ の 他	前 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 合格</p> <p>日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%) 提出物 (50%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	ビジネスコミュニケーション	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子 小野 美穂子
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職する上で必要な文章力、表現力、会話力身につける。就職活動で必要となるポートフォリオの作成。敬語の意味や使い方を学びながら実際の日本のビジネス社会に必要な文章や会話で表現できるようにする。</p> <p>明確なポートフォリオとして学内新聞の発行。</p> <p>また、日本人と同じように自身の意見を相手に理解しやすい形で伝えられる書き方、伝え方ができるようになる。</p> <p>日本人学科との交流授業において、グループで問題解決・意見交換・パワーポイント作成を行い、グループで発表する。</p>		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	文章読解・作成能力検定 4 級・3 級 (11 月受験予定)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>様々な課題について長文で書けるようになる。学内新聞の記事をグループごとで作成し、発行する。</p> <p>文章読解・作成能力検定 4 級の模擬試験問題を模擬試験形式で解き、教師は、間違いが多い問題について解説を行う。学生にとって主体的に学べるように新しい単語は自ら学び、グループ活動で問題解決ができるように教師はサポートしていく。</p>		
そ の 他	日本語能力試験を受ける前段階で読解力を身につけ、日本の社会で働く時に必要な文章力と会話力を身につけるための授業である。		
	前 期		
授 業 の 概 要	実践的に学び、ビジネス文書が書ける、話せるようになる。また、主体的な学びとして個人で学内新聞を一から作成する。記事、レイアウトを各自で作成し、「留学生だより」を作成する。日本人学科の学生とのグループワークで、主体的に話せるようになる。		
到 達 目 標	<p>様々な課題について、正しい敬語や表現で長文を書くことができる。各自のポートフォリオを完成させる。また文章読解・作成能力検定 4 級の合格を目指す。</p> <p>学内新聞の発行 (7 月)</p> <p>日本人学科との合同授業で、グループでパワーポイントを作成し、グループ発表を行う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>基礎から学べる！文章カステップ文章検 4 級対応</p> <p style="text-align: right;">公益財団法人 日本漢字能力検定協会</p>		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	CAD 演習Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	多くの製造業界などで活用されている 3DCAD について、イメージを作り実際にモデリング基礎から実践まで体系的に学ぶ		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	検定はなし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ThinkerCAD による 3DCAD の基本を習得し、基本的な立体の作図を行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	ThinkerCAD で 3DCAD の基礎を学び立体の作図ができる		
到 達 目 標	ThinkerCAD で 3DCAD の作図ができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (55%)、課題提出 (40%)、出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 自校作成テキスト他		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム 学科		2 年
科 目 名	プレゼンテーション技法Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	「プレゼンテーション技法Ⅰ」で学んだ PowerPoint やプレゼンテーションを基礎として、キャリア実習Ⅰで経験してきた内容を、外部向けに PowerPoint を用いてスライドを作成し、発表を行う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	キャリア実習Ⅰの報告会のプレゼンテーションを通し、実践的なプレゼンテーション力を身に付ける。また、発表内容に合わせた効果的な PPT 使い方、発表のときの立ち居振る舞い、発表を実現するための準備（機材、電気系統、会場設営、会場運営）などプレゼンテーションに関連するすべての実務を経験する。		
そ の 他			
授 業 の 概 要	キャリア実習の実習グループでその成果内容のプレゼンテーションを作成し、発表、フィードバックまでを行う。教師は、学生の主体的にプレゼンテーションの完成度を高めることを、サポートし、自分たちで問題点を見つけ出し、改善していくことを促す。実際に発表においては、企業様に見ていただき、フィードバックをもらう。また学生間でもフィードバックシートを付ける。		
到 達 目 標	キャリア実習Ⅰで受け入れて下さった企業様に向けて実施するプレゼンテーションであり、相手に求められている報告のプレゼンテーションを行う。		
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション(実技) (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	C 言語プログラミング演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	新谷 敏朗
時 間 数	前期：45 時間 / 後期：時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>プログラミング言語として長い歴史を持ち、システムプログラム向きの言語として確固たる地位にある C 言語を使いこなす能力を身に着けることを目的とする。そしてその能力を裏付ける資格試験に合格することが具体的な目標である。内容は文字列表示から始めて、基本データ型による演算、条件分岐や繰り返しなどの制御構造、配列、ポインタ、関数、構造体と進み、さらにスコープ、プリプロセッサ機能、標準入出力、ファイル入出力に至る。</p> <p>結果として、単に資格取得のみならず、実用的なプログラム開発能力が得られるようになるための、数多くの具体的な機能を持ったプログラムを作成する経験を積むようにする。</p>		
目指す検定・資格	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	大事なところを強調して、メリハリをつける。学生の理解度に応じた説明をする。予習と復習を毎回していただきたい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>統合開発環境 Visual Studio 2022 Community Edition を使いこなして、効率よくコード入力、コンパイル、実行、デバッグができるようになるように進めていく。また、教科書の章末練習問題によって、理解度を確認し、応用課題を適宜提供しながら、履修学生とのコミュニケーションを密にして、動機づけを図る。</p> <p>最後の 3 週間は、資格試験対策の演習を重点的に実施する。</p>		
到 達 目 標	<p>C 言語プログラミング能力認定試験 3 級試験範囲の内容を理解すること</p> <p>それにより、1 月に実施される試験に合格可能な C 言語に関する能力を得ること</p>		
成 績 評 価 方 法	課題提出物 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	情報処理試験合格へのパスポート C プログラミング ウイネット		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	コンピュータシステムⅡ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：45 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、SIer での SE・プログラマ(製造・流通系)としての経験を活かし、学生がシステム開発を行っていくうえでのコンピュータの基礎的な知識やコンピュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	コンピュータシステムⅠでコンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習した内容を、本講義で問題演習を繰り返すことにより理解を深める。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の合格に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る 事 項	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級 の問題演習		
到 達 目 標	・ サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の合格に必要なスキルを身につける。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 ウイネット ・ 情報処理技術者能力認定試験 3 級問題集 サーティファイ 情報処理能力認定委員会 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	ビジネス英語	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：16時間 / 後期：時間	実務経験：米国大学卒業後、英会話教室にて幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、IT 関連企業において IT エンジニアとして発話や英語が理解できる力を身につけられるように講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	グローバル社会が進む中で、IT 関連企業において外国人エンジニアの採用が積極的に行われている。日本で日本人と一緒に勤務するうえで、日本語コミュニケーション力が必要であるが、海外展開をしていくうえでは、共通語である英語コミュニケーション力が求められる。「STEAM」教育を理解することで、世界で通用する適応方法を学び、CNN で取り上げたニュースを題材に英語で話し合うことを目的としている。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ウェブサイト上にある音声・映像を活用しての CNN ニュースの内容を理解し、日常生活での簡単なやりとりを英語で表現できるようになること。		
そ の 他	Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics の頭文字を合わせた教育概念が「STEAM」教育であり、AI 時代に対応するための学びである。		
	前 期		
授 業 の 概 要	学習の仕方として、文章の読み方（スラッシュリーディング）・発声練習（シャドウング）・単語を覚えて、STEAM 教育を身につける。		
到 達 目 標	STEP 1 英語の語順に慣れる STEP 2 英語を見て、内容が理解できる（母語で） STEP 3 英語の意味を理解をできる		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出席率（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	大学生のための CNN ニュース・リスニング STEAM 教育編 川崎和基 朝日出版社		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	経営マネジメント概論 I	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポート試験は、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的とする。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、色々なメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	IT パスポート試験の勉強に並行して、わからない日本語を調べさせて、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	企業活動、法務、経営戦略マネジメントについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。 目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、IT パスポート試験合格レベルまで引き上げる		
到 達 目 標	IT パスポート試験取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポート試験に合格できるレベル（総合評価点 600 点）の到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（65%）、確認テスト（30%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	経営マネジメント概論Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、SIer での SE・プログラマ(製造・流通系)としての経験を活かし、学生がシステム開発を行っていく上でのコンピュータの基礎的な知識やコンピュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポート試験は、情報処理推進機構 (IPA) が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的とする。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、色々なメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を調べさせて、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	開発技術、基礎理論とアルゴリズム、コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェアについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。 目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、IT パスポート試験合格レベルまで引き上げる		
到 達 目 標	IT パスポート試験取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポート試験に合格できるレベル (総合評価点 600 点) の到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書+出る順問題集 (SBCreative)		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際 IT システム学科		2年
科目名	日本語能力試験Ⅲ	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期 ・後期・通年	担当教員	岡崎 良美 高橋 真実 小野 美穂子
時間数	前期：54 時間 / 後期：時間		
科目の目的と講義内容	日本語能力試験（JLPT）取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験（JLPT）（N1～N3）		
指導方法及び学生に期待すること	日本語能力試験（JLPT）合格を目指し、検定3週間前より受験級ごとに分かれて対策授業を行う。語彙・文法・読・聴解とテキストに沿って学習を行い、日本語能力試験（JLPT）の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。 また、対策授業では、週に一度の模試を実施する。 日本語能力試験（JLPT）と同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。 模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。		
その他	期末試験は模試の点数を評価の基準にする。		
	前 期		
授業の概要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。		
成績評価方法	期末試験（模試）（95%）出席率（5%）		
テキスト・副読本	「全科目攻略！ JLPT 日本語能力試験ベスト総合問題集」（The Japan Times Publishing） 超実践的 JLPT リアル模試（N1～N3）日本語能力試験 AJ オンライン株式会社		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	通期：30 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で社会人になることを目的とし、そのために必要な常識、就職試験のSPI に向けた基礎学力の定着を計る。</p> <p>日本の中学レベルの5教科の習得、就職活動の基本知識を身につける。</p> <p>ドリルを使用して学習を行い、すららネットを併用し、定着の確認を行う。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本の社会人になるために必要な一般常識や就職活動に必要な知識を身につける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>就職試験のSPI に向けて、中学レベルの5教科の基礎から学ぶ。</p> <p>ドリルで学習し、すららネットを併用し、習得の確認を行いながら確実な定着を促す。</p>		
到 達 目 標	<p>就職試験に必要となるSPI に向けての基礎として中学レベルの国語、英語、数学、理科、社会が理解できる。</p> <p>就職活動に必要な基本知識を習得する。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「就活ドリル はじめての一般常識」 はじめての一般常識対策研究会</p> <p>すららネット</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		2 年
科 目 名	労務管理	科 目 区 分	一般科目・専門科目
開 講 期	前期・後期・ <u>通年</u>	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：16時間 / 後期：16時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本企業における労働関係法令の内容を正しく理解・遵守するための知識を習得できるよう指導を行う。 また、労働基準法や労働組合法をはじめ、最低賃金法や労働安全衛生法といった様々な法律で定められている約束事のうち、労働者としての義務や権利をきちんと理解して日本の企業で働くことを期待する。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法について理解する ・労働条件に関するルールを理解する。 ・給与・年次有給等 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則と各種保険・年金制度について理解する。 ・労働関係が終了するときの注意事項について 	
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法について理解できる ・日本の企業での就業規則等について理解する ・母国に帰国する場合の注意事項について理解する（労働関係終了後の手続き等） 		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめての人のための労務管理がよくわかる本 著者 片桐めぐみ 印刷株式会社 		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語知識ⅡA (語彙・文法)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真美
時 間 数	前期：時間 / 後期：30 時間		
科目の目的と 講義内容	日本で就職するために必要となる日本語能力試験 (JLPT) N2 を取得するために必要な言語知識・語彙の内容を行う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) N2 合格		
指導方法及び 学生に期待すること	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル相当のやや高度な漢字・語彙を習得する。 中級レベルの語彙漢字の確認と演習から発展する。		
その他			
	後 期		
授 業 の 概 要	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの語彙・表現を学習する基礎を作る。 毎日漢字 20 問のテストを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。		
到 達 目 標	日本語能力試験 (JLPT) N2 の合格。 日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%)、単元別テスト (50%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	「改訂耳から覚える日本語能力試験 N2 聴解トレーニング」(アルク出版)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語知識ⅡB (読解)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期： 時間 / 後期：30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	日本語能力試験 (JLPT) N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p> <p>単元終了時にはそのテーマに関するスピーチを実施。互いにフィードバックや質問をし、自身の考えを日本語で発信、議論する場を増やす。</p>		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の長文読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	日本語能力試験 (JLPT) N2 合格 日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%)、単元別テスト (50%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	C 言語プログラミング演習Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	新谷 敏朗
時 間 数	前期：時間 / 後期：60 時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>プログラミング言語として長い歴史を持ち、システムプログラム向きの C 言語を使いこなす能力を身につけることを目的とする。そしてその能力を証明するための資格試験に合格することが具体的な目標である。「C 言語プログラミング演習Ⅰ」と同じように、文字列表示から始めて、基本データ型による演算、条件分岐や繰り返しなどの制御構造、配列、ポインタ、関数、構造体と進み、さらにスコープ、プリプロセッサ機能、標準入出力、ファイル入出力に至る範囲をカバーする。資格試験の過去問題を解く演習を毎回実施して、内容に関する解説を行う。特に試験時間内に回答を終えるための適切な時間の使い方や選択問題で正解がはっきりとはわからない場合の対処方法なども学ぶ。また、学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スベ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。</p>		
目指す検定・資格	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級		
指導方法及び学生に期待すること	大事なところを強調して、メリハリをつける。学生の理解度に応じた説明をする。予習と復習を毎回していただきたい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	教科書の章末練習問題を使った小テストや資格試験の過去問題による模擬試験を繰り返し実施する。その結果をみながら個々の学生の理解度に応じた解説を行う。		
到 達 目 標	<p>C 言語プログラミング能力認定試験 3 級試験範囲の内容を理解する。</p> <p>さらに、1 月に実施される 1 月に実施される試験に合格するための C 言語に関する能力を身につける。また、学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スベ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。</p>		
成 績 評 価 方 法	模擬試験（55%）、小テスト（40%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	情報処理試験合格へのパスポート C プログラミング ウイネット		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅳ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真実 小野 美穂子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：50 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験（JLPT）取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験（JLPT）（N1～N3）		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本語能力試験（JLPT）合格を目指し、検定3週間前より受験級ごとに分かれて対策授業を行う。 語彙・文法・読・聴解とテキストに沿って学習を行い、日本語能力試験（JLPT）の問題で演習し、確実に合格できるようにしていく。 また、対策授業として、週に一度の模試を実施する。 日本語能力試験（JLPT）を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。 そして、模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。		
その他	期末試験は模試の点数を評価の基準にする。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（模試）（95%）出席率（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「全科目攻略！ JLPT 日本語能力試験ベスト総合問題集」(The Japan Times Publishing) 超実践的 JLPT リアル模試(N1～N3) 日本語能力試験 AJ オンライン株式会社		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際ITシステム学科		2年
科目名	情報セキュリティ概論	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期・ 後期 ・通年	担当教員	玉置 順一
時間数	前期： 時間 / 後期：15時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科目の目的と講義内容	大切なデータや個人情報を、インターネット上の「悪意ある攻撃」などから守るための情報セキュリティとデータベース、ネットワークの基本知識を学ぶ。生活とインターネットが切り離せないものになった今、データベース、ネットワーク、情報セキュリティの知識を身につけることで、自分自身や会社・家族の財産を守ることにもつなげる。サイバー犯罪やセキュリティ対策の最新事情を交えながら、ちょっとした工夫や心がけで確実に安全性が高まり誰もが実践できるセキュリティ対策を学ぶ。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指導方法及び学生に期待すること	講義中心で行い、データベース、ネットワーク、情報セキュリティに関する専門用語でコミュニケーションができる。また急速に進化するネット社会において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新しい知識や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。		
その他			
	後 期		
授業の概要	データベース、ネットワーク、情報セキュリティの基本を理解し、様々な場面でのセキュリティに対する問題解決を理解する。 また、IT パスポート試験のデータベース、ネットワーク、情報セキュリティ分野の問題の解き方・考え方を身につける。		
到達目標	IT パスポート試験のデータベース、ネットワーク、情報セキュリティの分野問題が解けるようになる		
成績評価方法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	いちばんやさしいIT パスポート SB クリエイティブ		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際ITシステム学科		2年
科目名	CAD演習Ⅳ	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期・ 後期 ・通年	担当教員	小野 美穂子
時間数	前期： 時間 / 後期：30 時間		
科目の目的と講義内容	ものづくり日本において就職の幅を広げるため、2次元CAD利用技術者試験（基礎）の試験合格を目指す。そのために必要となる、CADシステムを利用する上でのコンピュータ関連の知識や製図の知識、図形の知識を基礎的かつ幅広く理解できるように講義を行う。		
目指す検定・資格	2次元CAD利用技術者試験（基礎）		
指導方法及び学生に期待すること	2次元CAD利用技術者試験（基礎）の資格取得に向けて必要となる、CADシステムを利用する上でのコンピュータ関連の知識や製図の知識、図形の知識を基礎的かつ幅広く理解する。		
その他			
授業の概要	CAD利用技術者試験の公式テキストに沿って、講義を行う。 文章ごとに確認テストを行い、理解度の確認も行う。 また、基礎の内容を深く理解する必要があるため2級の範囲にも触れて学習を行う。		
到達目標	2次元CAD利用技術者試験（基礎）合格		
成績評価方法	期末試験（95%）、出席率（5%）		
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD利用技術者試験 2次元2級・基礎 公式ガイドブック 2023年度版 日経BP 		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 I T システム学科		2 年
科 目 名	Java プログラミング演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	若林 潤一
時 間 数	前期：時間 / 後期：50 時間	実務経験：県内システム会社勤務を経て WEB サービス会社の社長 COO として従事した後独立。Web システムの開発、サービス提供の経験をもとに講義を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	コンピュータプログラミング入門として、幅広い分野で使用されている言語 Java を教材とし、メソッド、クラスとオブジェクト、継承、総称、例外、インターフェース、パッケージ、スレッド等の演習中心に授業する。言語習得の近道は、たくさんのプログラムを作成することが必要と考え、Java の基本的な文法及び、オブジェクト指向の考え方を学習し、オブジェクト指向を用いたプログラミングができるようになる。		
目指す検定・資格	サーティファイ Java プログラミング能力認定試験 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	基本文法を講義で行い、章末問題で確認をしていく。 座学と実習を組み合わせた複合的な授業を展開する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。 ・ Java による基本的な処理とデータ構造の理解 (式と演算、条件分岐、繰返し、配列、メソッド) ・ オブジェクト指向の基本概念の理解 (インスタンスとクラス、コンストラクタ、カプセル化、継承、インタフェース、多態性、API、例外)		
到 達 目 標	基礎的な文法、考え方を身につけることを目的とする。 また、Java プログラミング能力認定試験 3 級の合格を目指すことで、Java の能力を高める。 オブジェクト指向プログラミングの基本的概念を理解し、オブジェクト指向を用いた Java 言語プログラミングができるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	スッキリわかる Java 入門 第 3 版 インプレス スッキリわかる Java 入門 実践編 第 3 版 インプレス		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科 2年		
科 目 名	Web サイト制作演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	小池 はるか
時 間 数	前期： 時間 / 後期：40 時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Web アプリケーションのフロントエンド部分の開発を行うために必要不可欠な HTML と CSS の技術について学習する。1 つの Web サイト作成を題材として作成していくことで、Web プログラミングの技術も身につける。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	各自の PC で、実際に HTML+CSS を使って、Web サイトを作成する。 最終的には、複数ページに渡る Web サイトを個人の力で作れるようになることを期待する。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	HTML+CSS を使って、Web サイトを作成する。その中で Web の技術にも少し触れ、HTML+CSS の部分だけでなく、Web アプリケーションとしての体系的な知識も身につける。		
到 達 目 標	・ 複数ページに渡る Web サイトを個人の力で作れるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (70%)、提出物 (20%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	30 時間でマスター Web デザイン 改訂版 (実務教育出版株式会社)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	システム制御演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CAD や CAE など支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及び PLC 言語の基礎を学習する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	本実習では、PLC によるシーケンス制御実習システムの構築・実験を通して、計測・制御の知識・技術を身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	配布テキストに基づき、課題実習を行い、その都度提出する。 シーケンス制御システムの構築を行う。		
到 達 目 標	1. シーケンス制御の基本が理解できる。 2. PLC プログラムを作成し、動作を確認することができる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	自校作成		